

ひまわり通信 26 ねん 6 がっ

「イエス様の心」

毎年梅雨時になると「♪あめあめふれふれかあさんが〜♪、じゃのめでおむかえうれしいな〜ぴゅぴゅちじゃぶじゃぶカラランラン」という童謡を思い出します。母に連れられ傘をさしながら、道路脇にある紫陽花に心ときめいたものでした。しかし、この雨も土砂降りになるとたまったものではありません。今年の6月は土砂降りの多い月でした。あちこちで災害が発生し自然の脅威というものを思い知らされました。山や川の保水能力を超えたら、山崩れや川の氾濫を引き起こします。

子どもの成長は二葉にジョウロでやさしく水をかけるのと似ています。成長した草木になれば少々の大雨でもなんてことはありませんが、まだしっかりと大地に根付いてない状態だと流されてしまいます。ですから、幼い頃は特にその子にあった水やりが大切となります。また、水を与えるタイミングも大事です。お日さまがカンカンに照っている時に水をやると植物はだめになってしまいますから、同じようにその子がグンと成長するぞっ！というタイミングを待つのです。そのためにその子を忍耐強く見守る必要があります。モンテの教育はまさにその水やりのようなものです。

イエス様の心も同じです。私たちが自分自身で成長し、保水能力を高める事が出来るように常に心をかけてくださっていることを忘れずにいましょう。

園長 福崎

～ひとりで出来るように手伝ってください～

『ひとりで出来るように手伝って下さい』この言葉は子どもに寄り添う大人が忘れてはいけない、子どもの生命の叫びを、マリア・モンテソリーが発見して残した言葉です。歩き始めた子どもが2・3歩 歩いては尻もちをつき、また起き上がり歩いては尻もちをつく、親が手を貸そうとしてもその手を振り払い、歩き続ける姿を見ることがあります。子どもは、何かひとつの事が出来始めると夢中で繰り返します。これが、「自発的活動」と呼ばれるものです。これは、乳幼児期に限らず、それ以降の発達段階においても同じです。たとえば、折り紙が折れる様になると夢中になり時間を忘れて折ります。その結果、細かい所まで折れる様になり手の機能は豊かになります。子どもにとって「出来るようになる」という事は、言葉で教えて貰い理解する事ではなく、「自ら体験し獲得していく事」なのです。

ご家庭でも、子どもが楽しく使える子どものサイズの雑巾を作ってあげて絞り方を見せて、テーブル拭きのお仕事を任せたり、服や下着を子どもが自分で選べるように家具の高さや配置を子どもの背丈に合わせて、服のたたみ方や片付け方を伝えさせるなど、日常生活の中で自分の事は自分で出来るように環境を整える工夫をしてみるといいですね。子どもがひとりで出来る「環境を整える」事は、子どもがして貰いたいと思っている事に応える事です。

主任 福留

～園外保育～



先日、城山町にある“かごしまメルヘン館”へ、B・C・D組さんが行きました。「メルヘン館ってどんなところ？」「たのしみだな〜」あいにくのお天気でしたが、園バスに揺られ、期待に胸が膨らむ様子の子もたち・・・

メルヘン館内には、3階から1階まで螺旋になった坂道の壁に、童話のトリックアートが描かれてあり、絵本の世界を体感できる施設でした。また、ミニアスレチックや童話をモチーフにした遊具に触れ、夢の国へ入り込んだ様な感覚の子もたち。心も体も満たされ、充実した時間が過ごせました。

かごしまメルヘン館への園外保育は初めてでしたが、「メルヘン館たのしかった！」「こんどは、おかあさんといきたいな」とお話ししてくれた子どもたちでした。

あぐねず組担任 二宮



～いい集団・いい家族・いい接し方～ 前編

6月21日に臨床心理士の高山恵子先生の講演会に参加させていただきました。発達障害のある子だけでなく、子育てをしている方や、保育の仕事をしている方の為にもとてもよいお話でしたので、ご紹介させていただきます。

誰も責めてはいけない

日本は、子育ての責任をすべて母親におしつけがちです。そして母親自身も、自分が悪いと思ってストレスを溜め込むことが多いのです。家族、支援者、周りの人がまず、その子やその親が悪いのではないということを理解し、忘れないことが大切です。また、母親自身も「自分の責任」という思い込みを捨て、一人で頑張らずSOSを求めましょう。

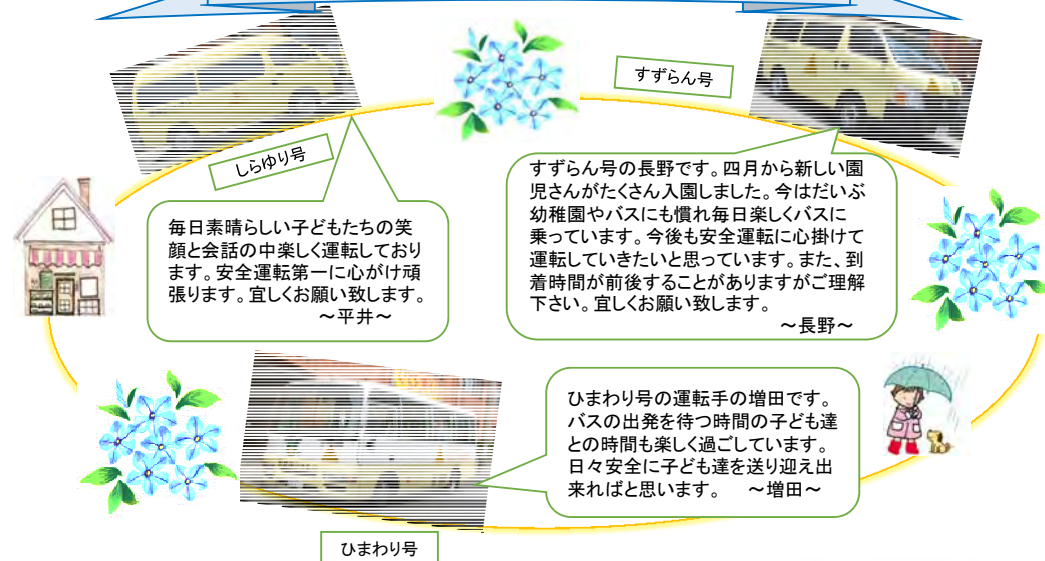
親や支援者が子どもの特性を理解し忘れない

まず大切なのは、診断名に左右されないことです。診断名に合った対応ではなく、その子に合った対応をする事「片付けをしない」ということ一つをとっても、

- ・「片付ける」という言葉の意味が分からない
 - ・片付け方が分からない
 - ・わざと片付けない
 - ・指示が聞こえていない
 - ・片付けることをうっかりしがちである
- など理由はさまざまで、目の前にいる子どもは、どれも理由かを理解することで対処の仕方が分かり、周りの子どももストレスなく行動することが出来るのです。

まりあ組担任 今村

バスの先生方を紹介します



★モンテソリー教具って何？★ Vol.3

さんすうぼう(数の棒)

赤と青に区切られた10本の棒の教具です。1から10までの数詞と序列を知ることができます。「5の棒もってきてね」と教師が言うと、子どもは自分で「1, 2, 3, 4, 5!」と5の棒を数えて持って来てくれます。赤と青で色が交互になっているので視覚的にも分かりやすくなっています。数がわかるようになると、加減乗除の印象づけも行っていきます。(6の棒に4の棒を合わせると、10の棒になります^^など)



さんすうぼう(数の棒)



学校法人カトリック学園 ひまわり幼稚園

〒891-0113 鹿児島市東谷山3丁目31-13 TEL:099-268-2340 FAX:268-2333